



これからの歯科医療 高齢者への歯科治療から再生医療まで

日時：平成27年12月12日（土）

場所：ホテル日航福岡

主催：日本歯科大学校友会

日本歯科大学歯学会

九州地区日本歯科大学校友会

日本歯科大学校歌

作詞：小暮 英男／校閲：児玉 花外／作曲：近藤栢次郎／編曲：前田 俊明

お お ぞ ら な が る る あ かつ き の
 か ね の ひ び き に あ け ー そ む る ー
 ふ よ う は っ だ の す が た こ そ わ
 れ ら が ぼ こ う の ま も り な れ ー
 ち は よ し く だ ん ふ じ ー み は ら な
 は よ し に ほ ん し か だ い が く

大空流るる暁の

鐘の響きに明け初むる

芙蓉八朶の姿こそ

吾等が母校の守りなれ

地はよし九段富士見原

名はよし日本歯科大学

高鳴る血潮の香をのせて

岸打つ文化の波頭

振り立つべき同胞の

甘幸もたらす学徒われ

地はよし新潟浜の浦

名はよし日本歯科大学

今さし出ずる朝日子の

平和と愛との輝きに

照りそう真紅の光こそ

吾等が母校の使命なれ

地はよし九段富士見原

名はよし日本歯科大学

九州地区歯学研修会開催にあたり



たかはし せいじ
高橋 省治

福岡県日本歯科大学校友会会長

九州地区歯学研修会は前回沖縄で開催されましたが、今回は平成27年12月12日(土)福岡市博多区、ホテル日航福岡に於いて開催することになりました。

当県は皆様もご承知のとおり、3校の歯科大学があり歯科の開業医に於いてはかなりの激戦区であります。そんな中、日々多くの研修会は有りますが、今度中原学長をはじめ日本歯科大学両学部から基礎臨床で活躍されている著明な先生方を多数お迎えして研修会を開催出来ます事は、九州地区会員にとって大きな喜びであります。

また今回の開催にあたって準備の為にご苦勞頂きました近藤勝洪日本歯科大学校友会会長、勝海一郎日本歯科大学歯学会会長、渡邊文彦準備委員長、九州各県の準備副委員長の先生方に厚く御礼申し上げます。

またご講演を頂きます先生方に於かれましては、大変ご多忙の中にもかかわらず当地にお出で下さいます重ねて御礼申し上げます。

さて研修会開催前には、日本歯科大学理事長・学長で日本歯科大学校友会会頭であります中原泉先生に本校の周辺の環境の変化と日本歯科大学が歯科界の先頭に立って進んでいる現状についてお話いただけたと思います。

現在の社会情勢の変化や少子高齢化による疾病構造の変化もあり、歯科医療を取り巻く環境の変化から在宅医療を受けられている高齢者への医療、介護施設の入居者に対する医療など新たな国民のニーズも高まっております。

従って今回の研修会では最先端の再生医療から歯周組織再生への応用、そして高齢者の歯科医療について幅広く研修出来ればと考えており、中原貴先生にはこれからの再生医療の将来性についてご講演頂き、また日本歯科大学が本部で日本初の歯髓細胞バンクのお話やその入会方法についても少しお話し頂きます。

また佐藤聡先生には歯周組織再生治療の最先端の取り組みや再生に関わる細胞の応用などをご講演頂きます。

最後に、日本歯科大学多摩クリニック院長菊谷武先生には高齢者医療の現状と取り組み、またこれからの高齢化歯科医療についてご講演を頂くことになっております。

皆様の多数のご出席をお待ちいたしております。

平成27年度日本歯科大学 九州地区歯学研修会

平成27年12月12日(土)

会場 ホテル日航福岡

◆12:30 登録受付

◆13:00 開会

司会 福岡県日本歯科大学校友会

専務理事 松藤 幸治

開会の辞

福岡県日本歯科大学校友会会長 高橋 省治

ご挨拶

日本歯科大学校友会会長 近藤 勝洪

日本歯科大学歯学会会長 勝海 一郎

◆学長講演

13:15~14:00 「日本歯科大学は、今」

日本歯科大学理事長・学長

日本歯科大学校友会会頭 中原 泉

歯学研修会テーマ

「これからの歯科医療

高齢者への歯科治療から再生医療まで」

◆講演1

座長 小林 敏

14:00~15:30 「安全・身近なバイオ再生医療にむけて」

～歯髄細胞バンクが担う未来の再生医療～

日本歯科大学生命歯学部発生・再生医科学講座教授 中原 貴

◆休憩

15:30~15:40

◆講演2 座長 黒岩 繁樹

15:40~16:40 「歯周の再生治療の現状」

日本歯科大学新潟生命歯学部歯周病学講座教授 佐藤 聡

◆講演3

16:40~17:40 「食べることに問題のある患者に
歯科は何ができるのか？」

日本歯科大学生命歯学部教授
口腔リハビリテーション多摩クリニック院長 菊谷 武

◆17:40~18:00 質疑

◆18:00~18:05 閉会の辞 福岡県日本歯科大学校友会副会長
岡藤 敏生

◆18:10~18:15 記念写真撮影

◆18:15~20:30 懇親会

司会 福岡県日本歯科大学校友会
常務理事 中西 勇一

開会の辞 福岡県日本歯科大学校友会会長 高橋 省治

来賓ご挨拶 日本歯科大学理事長・学長
日本歯科大学校友会会頭 中原 泉

日本歯科大学校友会会長 近藤 勝洪

日本歯科大学歯学会会長 勝海 一郎

乾杯 日本歯科大学校友会副会長 佐野 直

◆20:25~20:30

閉会の辞 熊本県日本歯科大学校友会会長 三苫 司

学長講演 日本歯科大学は、今



なかはら せん
中原 泉

日本歯科大学理事長・学長
日本歯科大学校友会会頭

100という数字には、インパクトがあります。

私どもの日本歯科大学は、2006年に創立100周年を迎えました。

一卒業生として、100周年に立ち会えたことは幸せでした。

さらに2011年3月11日に、第100回卒業生を送りだしました。

その卒業式のあとに、東日本大震災が発生し、私どもには忘れられない日となりました。

このたびは、歯科大学を取りまく環境についてお話いたします。

-MEMO-

A series of horizontal dashed lines for writing, spanning the width of the page. A large, light gray triangular graphic is positioned on the right side of the page, pointing upwards and partially overlapping the lines.

講演1 安全・身近なバイオ再生医療にむけて

～歯髄細胞バンクが担う未来の再生医療～



なかはら
中原

たか
貴

日本歯科大学生命歯学部発生・再生医科学講座 教授

近年めざましい発展を続ける再生医療であるが、生体材料、成長因子、遺伝子治療など、さまざまなアプローチが存在する。その中でもとくに細胞を用いた新たな医療を、私は「バイオ再生医療」と名付けた(日本歯科医師会雑誌2014年9月号)。

世界的な注目を集める網膜疾患に対するiPS細胞の臨床研究は、すでに1年以上が経過して順調に推移しているようである。歯科におけるバイオ再生医療も、東京女子医科大学と国立長寿医療研究センターにおいて、歯周病患者10名と不可逆性歯髄炎患者5名にそれぞれ細胞移植による再生医療が行われており、歯周組織および歯髄の再生を認める報告がなされている。

けれども、これら細胞移植による再生医療を行うには、あらかじめ患者自身の細胞を用意する必要がある。すでに骨髄バンクやさい帯血バンクなど既存の細胞バンクが存在するが、いずれも上記のバイオ再生医療のための細胞バンクではない。したがって、現在のわが国には、再生医療のための細胞バンクは存在しない。

そこで本学では、治療抜歯で廃棄されてきた抜去歯の歯髄細胞を培養・保管して将来の再生医療に活用する取り組みを開始した。保管した歯髄細胞は、預けた本人の再生医療に用いることはもちろんであるが、再生医療の急速な発展にともない、その家族にも利用できる可能性がきわめて高い。

わが国は、iPS細胞ストックと称して、他人の細胞からiPS細胞を作製して多くの患者の再生医療に用いていく他家移植を推進している。しかし、われわれの歯科医療において

は、なによりも安全が最優先されるべきであり、まったくの他人の細胞ではなく、家族の細胞を共有するような再生医療が望ましいと考えている。本学の歯髄細胞バンクによって、“わが家で一人”の歯髄細胞を保管できるシステムが一般化すれば、安全で身近なバイオ再生医療が実現するであろう。

本講演では、現在のバイオ再生医療について概説し、本学の歯髄細胞バンクの概要と意義について紹介したい。

略 歴

1999年3月	日本歯科大学歯学部 卒業 (88回卒)
1999年4月	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 入学
1999年7月	京都大学再生医科学研究所特別研究生 (2002年6月まで)
2003年3月	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科博士課程修了博士 (学術) 取得
2003年4月	日本歯科大学歯学部発生・再生医科学 助手
2003年4月	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 非常勤講師 (2007年3月まで)
2005年4月	日本歯科大学歯学部発生・再生医科学 講師
2006年4月	東京慈恵会医科大学解剖学講座第2 訪問研究員 (2007年3月まで)
2008年4月	日本歯科大学生命歯学部発生・再生医科学 准教授
2010年4月	日本歯科大学生命歯学部発生・再生医科学 教授 (現在に至る)
2010年6月	日本歯科大学大学院生命歯学研究科 委員 (現在に至る)
2013年2月	筑波大学大学院人間総合科学研究科 非常勤講師 (現在に至る)

学会活動 (認定医資格) 等

2015年8月	日本歯科大学・セントラルクリニック歯髄細胞バンク認定医
2015年6月	日本歯科大学特定認定再生医療等委員会 (第2種) 委員
2015年4月	日本ヒト細胞学会 理事
2013年6月	日本抗加齢医学会 評議員
2012年9月	歯科基礎医学会 評議員
2011年1月	日本バイオインテグレーション学会 評議員
2008年1月	日本抗加齢医学専門医
2007年8月	日本ヒト細胞学会 評議員
2007年8月	日本ヒト細胞学会 幹事 (2015年3月まで)

受 賞

2015年5月	日本歯科大学生命歯学部ベストレクチャー賞
2013年5月	日本歯科大学生命歯学部ベストレクチャー賞
2010年10月	第55回日本口腔外科学会総会・学術大会 最優秀口演発表賞 (李春根賞)
2010年10月	第55回日本口腔外科学会総会・学術大会 優秀口演発表賞
2010年8月	日本ヒト細胞学会 学会賞 (学術論文賞)
2005年6月	日本歯科大学歯学会 学術研究奨励賞
2002年7月	第23回日本炎症・再生医学会 発表優秀賞
1999年4月	日本育英会奨学金

講演2 歯周組織再生治療の現状



さとう
佐藤

そう
聡

日本歯科大学新潟生命歯学部歯周病学講座 教授

歯周病は、慢性の炎症性の疾患であり疾患の進行にともない歯と歯肉、または歯根膜との境界の付着器官が破壊され、歯を取り巻く歯槽骨の吸収へと重症化することが知られている。歯周組織の再生治療は、このように歯周病により非可逆的に破壊されたセメント質、セメント質を介した線維性の結合、さらに歯槽骨を再生させようとする試みとして20世紀の後半から考えられてきた。

一般に組織の再生には、細胞（組織を再生させることの出来る細胞）、増殖因子（細胞の増殖のきっかけとなる因子）、足場（失われた空間に細胞がいきわたる為のネット）の3つの要素が必要で、さらにこの要素に加え適切な環境と時間が加わることで組織の再生が成立すると考えられている。これまで歯周組織の再生は、第一世代として足場としての骨移植材（自家骨、他家骨、人工骨など）の応用や、歯周組織の再生に深い関わりのある細胞が働ける環境・スペースを確保する術式であるGTR法（細胞遮断膜を応用する方法）が広く行なわれてきた。さらに近年になり第二世代として積極的に細胞の増殖を促す因子（PDGF、FGFなど）を利用した方法、さらに細胞の増殖を促す因子が複数存在するような状態にある材料（多血漿板血漿；PRP）や、動物の歯胚から抽出したエナメル基質由来タンパク質（EMD）を応用する治療法へと変遷してきており、日本国内はもとより国外においても臨床において長期的に安定した良好な報告がみられる。

今回の講演では、日常臨床において行われている歯周組織再生治療の現状について、2012年に日本歯周病学会によりまとめられた「歯周病患者における再生治療のガイドライン」の内容を含めて紹介するとともに、現在本講座において取り組んでいる第三世代に向けた歯周組織再生治療の取り組み、すなわち再生に関わる細胞をあらかじめ体外で増やし、さらに保存しながら歯周組織の再生などに応用する取り組みについて述べたい。

略 歴

- 1987年 日本歯科大学新潟歯学部 卒業
 - 1991年 日本歯科大学大学院歯学研究科博士課程 修了
 - 1991年 日本歯科大学歯学部歯周病学教室 助手
 - 1993年 日本歯科大学歯学部歯周病学教室 講師
 - 1996年 テキサス大学ヘルスサイエンスセンター・ヒューストン 留学 (1997年まで)
 - 1999年 国際協力事業団 (JICA) 出向
ペラデニア大学 (スリランカ) 歯学教育プロジェクト 歯周病学専門家
 - 2003年 日本歯科大学歯学部歯周病学講座 助教授
 - 2005年 日本歯科大学新潟生命歯学部歯周病学講座教授
 - 2011年 日本歯科大学新潟生命歯学部先端研究センター再生医療学教授併任
- 現在に至る

講演3 食べることに問題のある患者に

歯科は何ができるのか？



きくたに
菊谷

たけし
武

日本歯科大学生命歯学部教授

口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長

高齢化の進展した日本において、誤嚥が原因となる肺炎による死亡者は増加し、日本人の死因の第3位になった。また、食品による窒息事故死は年間7千にも及ぶとされる。さらには、飽食の時代において多くの要介護高齢者は低栄養状態であるという。

高齢者にみられる食の機能低下は、一度発症すると負の連鎖に陥りやすく、最終的には口から食べることが困難となり健康寿命の短縮につながる。負の連鎖のきっかけは、咬合支持の喪失など口腔の問題が挙げられる。高齢者医療における歯科医療の役割とは、一義的にこの咬合支持の崩壊の予防と再構築にあると言える。高齢者に対する歯科医療の目標設定において、患者の今おかれているステージの把握と時間軸の考慮が必要となるが、多くの現場においてこれらが考慮されているとは言い難い。患者の食べることの可否やどの程度までの食形態が安全に食べることができるかということについては、咀嚼機能や嚥下機能に加え、患者を取り巻く環境にも左右される。私たち歯科医師は、食べることを支えるための専門職であることは言うまでもない。しかし、これまで、義歯の適合や歯の保存にのみこだわり、食べること全体を見てこなかった。一方、口腔機能を守る職種としての歯科の専門性はゆるぎないものがある。

地域の高齢者の食事を支えているのは、コンビニエンスストア（コンビニ）だといわれている。コンビニは若者向けの店舗と思われているが、来店者の3割は50歳以上で、少量の買い物にも適しているという。一方、どの科の医院より多い歯科医院は（歯科診療所7万件）、コンビニの数（5万件）より多いとされ、地域に根差した医療を展開している。歯科医療は、地域の高齢者の食生活を支える先兵となるべきである。

本講演では、患者の食を支えるべく、患者のステージに応じた、口腔機能の評価に基づく対応法についてお話しする。

略 歴

日本歯科大学 教授
口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長
大学院生命歯学研究科 臨床口腔機能学
東京医科大学兼任教授
岡山大学、広島大学、徳島大学、北海道大学、日本大学松戸歯学部、神奈川歯科大学
非常勤講師

平成元年 歯学部附属病院高齢者歯科診療科入局
平成13年10月より 附属病院 口腔介護・リハビリテーションセンター センター長
平成17年4月より 助教授
平成19年4月より 准教授
平成22年4月 教授
平成22年6月 大学院生命歯学研究科臨床口腔機能学教授
平成24年1月 東京医科大学兼任教授
平成24年10月 口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長

日本老年歯科医学会 理事、評議員
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 理事、評議員
日本障害者歯科学会 評議員

平成26～28年度厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）「地域包括ケアにおける摂食嚥下および栄養支援のための評価ツールの開発とその有用性に関する検討」主任研究者

平成24～26年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）「歯科介入型の新たな口腔管理法の開発及び介入効果の検証等に関する研究」主任研究者

平成21～23年度厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）「介護予防における口腔機能向上・維持管理の推進に関する研究」主任研究者

著 書

『絵で見てわかる一認知症「食事の困った！」に答えます』 女子栄養大学出版

『絵で見てわかる一入れ歯のお悩み解決』 女子栄養大学出版

『食べる介護がまるごとわかる本』 メディカ出版

『高齢者の口腔機能評価NAVI』 医歯薬出版

『図解 介護のための口腔ケア』 講談社

『ベットサイドの高齢者の診かた』 南山堂

『基礎から学ぶ口腔ケア』 学研

『在宅歯科診療実践マニュアル』 厚友出版

『介護予防のための 口腔機能向上マニュアル』 建帛社

『かむのみこむが困難な人の食事』 女子栄養大学出版

『介護予防と口腔機能の向上Q&A』 医歯薬出版

『医療連携による在宅歯科医療』 ヒョーロン ほか

平成27年度日本歯科大学九州地区歯学研修会準備委員会

準備委員長

渡邊 文彦 (66回) 日本歯科大学歯学会副会長

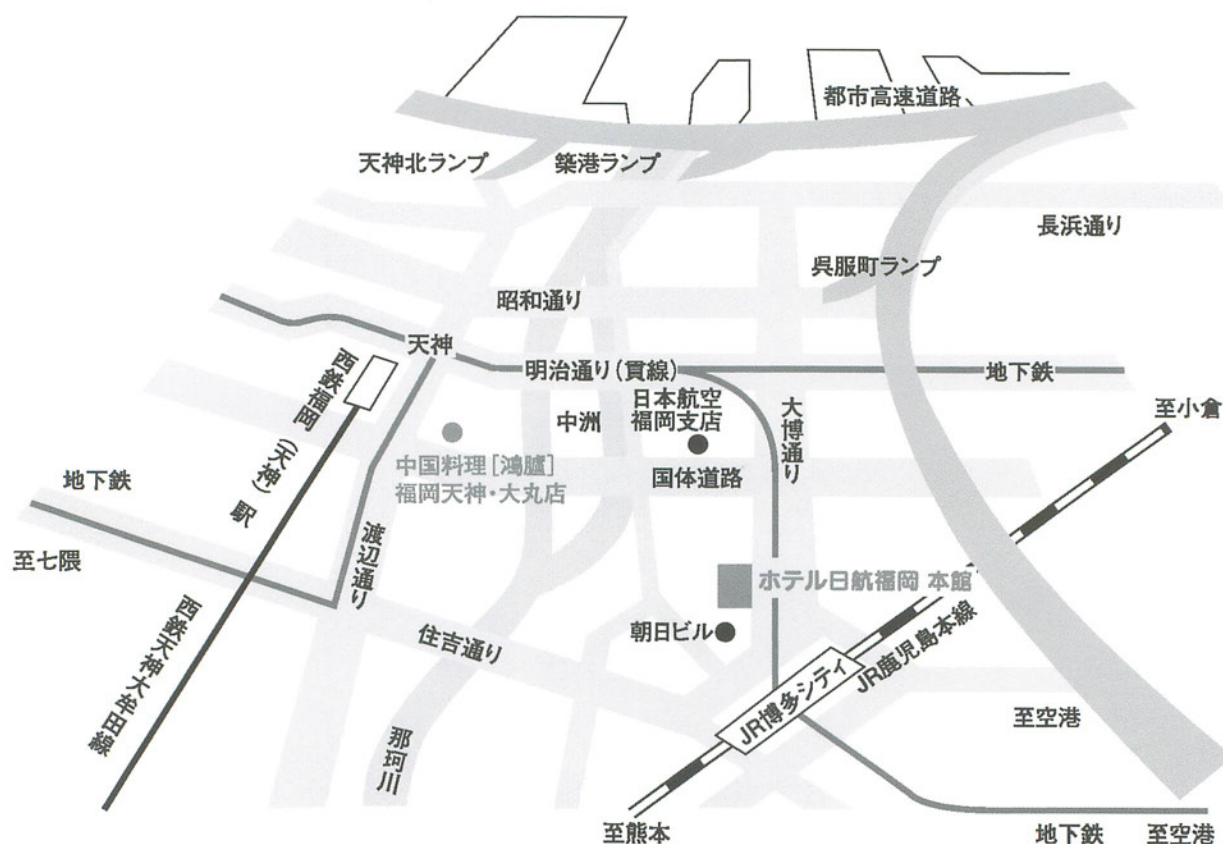
準備副委員長

佐野 直 (65回) 日本歯科大学校友会副会長
田中 良彦 (71回) 日本歯科大学校友会常務理事
三苫 司 (65回) 日本歯科大学校友会理事
熊本県日本歯科大学校友会会長
河野 俊夫 (60回) 大分県日本歯科大学校友会会長
坂井 一弥 (66回) 佐賀県日本歯科大学校友会会長
岩屋美津夫 (69回) 長崎県日本歯科大学校友会会長
中村 勇三 (63回) 鹿児島県日本歯科大学校友会会長
黒木 新治 (63回) 宮崎県日本歯科大学校友会会長
渡口 進一 (59回) 沖縄県日本歯科大学校友会会長
高橋 省治 (61回) 福岡県日本歯科大学校友会会長

準備委員

松浦 辰彦 (53回) 福岡県日本歯科大学校友会監事
角 憲次郎 (60回) 福岡県日本歯科大学校友会監事
岡藤 敏生 (63回) 福岡県日本歯科大学校友会副会長
山田 高志 (75回) 福岡県日本歯科大学校友会副会長
松藤 幸治 (64回) 福岡県日本歯科大学校友会専務理事
中西 勇一 (78回) 福岡県日本歯科大学校友会常務理事
小林 敏 (63回) 福岡県日本歯科大学校友会理事
黒岩 繁樹 (64回) 福岡県日本歯科大学校友会理事
小山 功一 (80回) 福岡県日本歯科大学校友会理事

会場案内



交通のご案内：JR博多シティ（博多駅）より徒歩3分。JR・地下鉄博多駅と直結。
福岡空港から地下鉄で5分。タクシーで15分。

駐車場：117台収容（B1・B2・B3）



ホテル日航福岡

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-18-25

TEL 092-482-1111 FAX 092-482-1127

<http://www.hotelnikko-fukuoka.com>

